

報告書

フィールドワークによる河川環境保全の研究

大阪商業大学経済学部

原田ゼミナール

5期生

今西 卓也

上野 翔太

奥田 優也

北森 信裕

久崎 大介

小坂 幸紀

小橋 泰之

小山 悠

鈴木 信一

辻村 明志

出口 裕貴

永石 貢大

中西 宏晃

端野 達也

畑中 慎太郎

東原 大輔

藤本 裕一

古西 祐貴

間苧谷 洋貴

武藤 大輝

安田 和正

まえがき

本ゼミでは、2006年度よりフィールドワークを通じて、河川の漂着ゴミ問題に取り組んでいる。

現在では淀川の水源地域から、瀬戸内海の無人島に至るまで、年間を通じた調査を行っているが、その中でもフィールドワーク開始当初より調査を行っているのが、日本を代表する観光地のひとつである京都・嵐山を流れる保津川（桂川）である。

この保津川は、すぐれた景観だけではなく、淀川水運の伝統を今に伝える保津川下りや、淀川水系で唯一残された国の天然記念物・アユモドキの生息地であるなど、自然環境や文化の面からも非常に価値の高い川といえよう。その一方で、下流部の京都・大阪に水道水を供給し、また洪水の被害からまちを守るために、200軒近い家々を沈めてダムが建設された。

近年、この保津川では、すぐれた景観を守るために保津川下りの船頭衆が中心となった清掃活動が市民を巻き込む形で活発に行われている。また、湖底に沈んだ村の夜景をダム湖の湖面に再現しようと、市民が中心となった「天若湖アートプロジェクト」が行われるなど、人々と川のかかわりを見直すうえでも大変興味深い取り組みが多数行われている。

本論集は、そうした取り組みに、右も左もわからぬまま飛び込んだ学生たちの活動の記録でもある。河川環境やアートイベントの価値の経済的な評価、船頭衆や行政職員、NPOスタッフへの聞き取り調査、といった学びを通じて、彼らは大きく成長した。その記録を、ご覧いただければ幸いである。

2011年3月20日
大阪商業大学経済学部
原田禎夫

謝辞

本調査の実施にあたり、多くの方にご協力をいただいた。ここに、心より感謝の意を表す。

目次

第1章	保津川の漂着ゴミ問題と、河川環境保全の経済評価	1
第2章	国土交通省淀川河事務所へのヒアリング調査	14
第3章	保津川の環境全に向けて（インタビュー）	22
第4章	天若湖アートプロジェクト	45
第5章	京都日吉やさい市について	83